

■別紙・・・主な特徴と新旧対比(章内容の移動)および各章の主な変更点

助産師基礎教育テキスト 2017年版[第1巻]

【改訂のポイント】

- ・「助産概論」にかかわる国家試験出題基準を網羅しました。
- ・助産ケアの現状を踏まえ、助産師の役割・教育・研究にかかわる「第1章」を再構成しました。
- ・日本の母子保健の基礎知識・最新の動向を、要点を絞って解説しました。
- ・世界の母子保健に関する内容を見直し、国際的な動向を分かりやすく解説しました。
- ・周産期医療をめぐる倫理的課題(出生前診断, 生殖補助医療など)について加筆しました。

新(2017年版) 責任編集:工藤美子		旧(2016年版) 責任編集:山本あい子	
第1章 助産師とは		第1章 助産師とは	
1 助産とは 1) 子どもを生むこと, 子どもが生まれること 2) 子どもを産み育てることの支援	工藤美子	1 助産とは 1) 社会と助産師 2) 助産ケアのモデル 3) 現在のわが国の助産	遠藤俊子
2 助産師の定義 1) 専門職としての助産師 2) 日本の助産師		2 助産師の定義 1) 国際的な定義 2) 日本の定義	
3 助産師の業務 1) 保健師助産師看護師法における助産師の業務 2) 助産実践に必要な能力 3) 母性看護領域における周産期看護の看護業務基準		3 助産師の業務 1) 保健師助産師看護師法における助産師の業務 2) 母性看護領域における周産期看護の看護業務基準 3) 助産師のアセスメントと診断一系統的なアプローチ 4) 基本的助産業務に必要な能力 5) 助産師の活動の場	
4 助産師の教育 1) 日本の助産師基礎教育 2) 日本の助産師の継続教育と卒後教育 3) 諸外国における助産師教育		4 助産師の教育 1) 現在のわが国の助産師基礎教育 2) 助産師の卒後の継続教育 3) 諸外国の助産師教育	
5 助産師と研究 1) ICM所信声明からみる研究における助産師の役割	遠藤俊子	5 助産師と研究 1) ICM所信声明からみる研究における助産師の役割 2) 助産の研究の動向	
6 Evidence Based Practice 1) よい実践とエビデンス 2) Evidence Basedとは 3) 科学的根拠に基づくケアへの5つのステップ 4) 助産師が活用できるエビデンス	安成智子		
【第1章の主な変更点】			
<ul style="list-style-type: none"> ・新1章1~4→執筆者変更, 新規内容 ・新1章6→旧2章7「Evidence Based CareとNarrative Based Care」を移動, 節タイトルを変更, 内容を修正 			
第2章 助産師が行うケア		第2章 助産師が行うケアの理念	
1 対象理解とケア論の考え方	山本あい子	1 対象理解とケア論の考え方	山本あい子
2 対象の見方 1) セルフケア理論 2) アタッチメント理論 3) 役割理論	小林孝子	2 対象の見方 1) セルフケア理論 2) アタッチメント理論 3) 役割理論	小林孝子
3 女性の意思決定を支えるしくみ 1) ヘルスケアにおける意思決定へのアプローチ 2) 女性と助産師との関係性の中における意思決定 3) 女性の望む意思決定スタイル 4) 意思決定に影響を及ぼす要因 5) 女性の意思決定を支援するための助産師のアプローチ : 不確かさの容認 6) 女性の意思決定を支援する取り組み	鳥越郁代	3 女性の意思決定を支えるしくみ 1) ヘルスケアにおける意思決定へのアプローチ 2) 女性と助産師との関係性の中における意思決定 3) 女性の望む意思決定スタイル 4) 意思決定に影響を及ぼす要因 5) 女性の意思決定を支援するための助産師のアプローチ : 不確かさの容認 6) 女性の意思決定を支援する取り組み	鳥越郁代
4 Woman-centered care: 女性を中心にしたケア 1) 女性を中心にしたケアとは 2) 女性を中心にしたケアの帰結 3) 女性を中心にしたケアに関連した概念	片岡弥恵子	4 Woman-centered care: 女性を中心にしたケア 1) 女性を中心にしたケアとは 2) 女性を中心にしたケアの帰結 3) 女性を中心にしたケアに関連した概念	片岡弥恵子
5 Family-centered care: 家族中心のケア 1) 家族を対象としたケアについて 2) ファミリーセンタード・マタニティ・ケアの歴史と発展 3) ファミリーセンタード・マタニティ・ケアの実践	小林孝子	5 Family-centered care: 家族中心のケア 1) 家族を対象としたケアについて 2) ファミリーセンタード・マタニティ・ケアの歴史と発展 3) ファミリーセンタード・マタニティ・ケアの実践	小林孝子
6 保健指導の技術—対象別のアプローチ 1) 助産領域における保健指導とは 2) 「切れ目のない支援」における保健指導の位置づけ	安成智子	6 性周期からとらえた女性のケア 1) 女性の性周期 2) 月経周期に関連した健康問題 3) ライフサイクルからとらえた健康問題 4) 性周期に応じた女性のケア	野澤美江子
		7 Evidence Based CareとNarrative Based Care 1) Evidence Based Care 2) Narrative Based Care	安成智子
【第2章の主な変更点】			
<ul style="list-style-type: none"> ・章タイトルを変更。章全体の内容を更新・修正 ・旧2章6の内容を削除→性周期からとらえた女性のケアについては, 本テキスト2巻「女性の健康とケア」を参照 ・新2章6「保健指導の技術」を新設 ・旧2章7を新1章6に移動 			

第3章 助産実践の倫理		第3章 助産実践の倫理			
1 倫理の位置づけ	山本あい子	1 倫理の位置づけ	山本あい子		
2 実践と倫理的意識決定 1) なぜ実践の倫理なのか? 2) 価値とは何か? 3) 倫理原則 4) 倫理的意識決定のプロセス 5) 日本文化と倫理的判断		2 実践と倫理的意識決定 1) なぜ実践の倫理なのか? 2) 価値とは何か? 3) 倫理原則 4) 倫理的意識決定のプロセス 5) 日本文化と倫理的判断			
【第3章の主な変更点】 ・新3章1-1)倫理の位置づけについて、ICM「助産師の倫理綱領」に沿った記述に更新・修正 ・旧表3-1「ICM 助産師の国際倫理綱領」を削除→新1巻資料に「ICM 助産師の倫理綱領」全文を追加					
第4章 女性の健康と人権		第4章 女性の健康と人権			
1 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 1) リプロダクティブ・ヘルス 2) リプロダクティブ・ライツ		吉沢豊予子		1 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 1) リプロダクティブ・ヘルス 2) リプロダクティブ・ライツ	吉沢豊予子
2 女性の健康にかかわる権利 1) リプロダクティブ・ヘルス/ライツまでの世界の動き 2) 女性の権利	2 女性の健康にかかわる権利 1) リプロダクティブ・ヘルス/ライツまでの世界の動き 2) 女性の権利				
3 性差医療の中の女性医療 1) 性差医療の歴史 2) 日本の女性医療の取り組み 3) 性差を考慮した看護学 (Gender-Specific Nursing)	3 性差医療の中の女性医療 1) 性差医療の歴史 2) 日本の女性医療の取り組み 3) 性差を考慮した看護学 (Gender-Specific Nursing)				
4 生命倫理上の課題 1) 生命倫理と意思決定 2) 出生をめぐる倫理的課題	野澤美江子				
【第4章の主な変更点】 ・第4章1～3について、内容を更新・修正 ・新4章4に「生命倫理上の課題」を追加					
第5章 日本の母子保健の動向と課題		第5章 お産の歴史と文化			
1 母子保健の基本的知識 1) 母子保健の理念と対象 2) 母子保健の変遷 3) 地域・地域社会の概念	常田裕子	1 お産の歴史 1) 産婆の職業化 2) 江戸時代の産婆の職業化 3) 明治時代の産婆 4) 大正時代から第二次世界大戦終了まで 5) 第二次世界大戦終了後から昭和時代 6) 平成時代のお産	高橋みや子 /小山田信子		
2 母子保健に関する指標と動向 1) 母子保健の水準を示す指標 2) 出生に関する指標 3) 死亡に関する指標 4) 人口構造の変化 (少子高齢化) 5) 少子化に関連する動向		2 お産と文化 1) 伝統的出産と近代的出産 2) 現代の助産師の担うべき地域社会における社会文化的役割 3) 民俗学, 文化人類学におけるとらえ方 4) 女性の健康を害する習慣	杉浦絹子		
3 母子保健行政のしくみと関係法規 1) 母子保健行政のしくみ 2) 母子保健の関係法規					
4 母子保健に関する制度 主な母子保健施策 1) 少子化対策と母子保健に関する施策					
【第5章の主な変更点】 ・旧第6章を新第5章に移動, 章タイトル変更 ・執筆者変更, 新規内容 ・旧第5章は新第7章へ移動					
第6章 世界の母子保健の動向と課題		第6章 日本における母子保健の動向と課題			
1 母子保健に関する指標と動向 1) 出生に関する指標 2) 死亡に関する指標 3) 妊産婦疾病, 健康障害 4) 母子の健康に間接的に関連する要因	田村康子	1 母子保健の基本的知識 1) 母子保健の理念と対象 2) 母子保健の変遷 3) 母子保健に関連する法律	小林孝子		
2 母子保健対策 1) 持続可能な開発目標 2) 母子の健康に対するケア 3) 継続的ケア		2 母子保健に関する指標と動向 1) 母子保健の水準を示す指標 2) 出生に関する指標 3) 死亡に関する指標 4) 少子化に関連する動向 5) 少子化対策に関する経緯			
3 母子保健に関する国際的な活動の場 1) 国際機関や組織 2) 助産師が活躍できる場		3 母子保健活動の実際 1) 地域における母子保健対策 2) 産業界における母子保健対策			
		4 母子保健の課題 1) 安心して子どもを育てることのできる環境づくり 2) 妊娠・出産に関する安全性確保の継続 3) 子どもの保健医療体制の充実 4) 思春期の健康と性への取り組みの推進			

【第6章の主な変更点】 ・旧第7章から移動 ・章全体で内容を更新・大幅修正 ・旧第6章の内容は新第5章に移動			
第7章 お産の歴史と文化		第7章 世界の母子保健の動向と課題	
1 お産の歴史 1) 産婆の職業化 2) 江戸時代の産婆の職業化 3) 明治時代の産婆 4) 大正時代から第二次世界大戦終了まで 5) 第二次世界大戦終了後から昭和時代 6) 平成時代のお産	高橋みや子 /小山田信子	1 母子保健に関する指標と動向 1) 出生に関する指標 2) 死亡に関する指標 3) 妊産婦疾病、健康障害 4) 母子の健康に間接的に関連する要因	田村康子
2 お産と文化 1) 伝統的出産と近代の出産 2) 現代の助産師の担うべき地域社会における社会文化的役割 3) 民俗学、文化人類学におけるとらえ方 4) 女性の健康を害する慣習 5) トランスカルチュラル・ナーシング : 文化人類学の視点を取り入れた看護の視点	杉浦絹子	2 母子保健対策 1) ミレニアム開発目標 2) 母子の健康に対するケア 3) 継続的ケア	
		3 母子保健に関する国際的な活動の場 1) 国際機関や組織 2) 助産師が活躍できる場	
【第7章の主な変更点】 ・旧第5章から移動 ・章全体で内容を更新・修正			
資料		資料	
1) 保健師助産師看護師法（抄） 2) 母子保健法（抄） 3) ICM助産師の倫理綱領 4) ICM基本的助産実践に必須なコンピテンシー 5) 助産師の倫理綱領 6) 少子化社会対策大綱		1) 保健師助産師看護師法（抄） 2) ICM基本的助産業務に必須な能力 3) 助産師の倫理綱領 4) 医療機関における助産ケアの質評価	
【資料の主な変更点】 ・「母子保健法（抄）」「ICM助産師の倫理綱領」「少子化社会対策大綱」を追加 ・旧2)を「ICM基本的助産実践に必須なコンピテンシー」に差し替え ・「医療機関における助産ケアの質評価」を削除			